

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
AA45N127	SDGs(SDGs) *大分を創る科目					全学共通科目 自然	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1・2・3・4	教・理工・福	後期	火1	氏名 氏家誠司, 井上高教(理工) E-mail tinoue@oita-u.ac.jp 内線 09087862778						
授業の概要	2015年の国連サミットにて「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。これは人類と地球の繁栄のための行動計画として策定されたもので、2016年から2030年までの目標として「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」が掲げられました。17のゴールおよび169のターゲットから構成されており、地球上の誰一人として取り残さない、持続可能で包摂的な世界の実現を目指すことです。本講義では、このSDGsの基本理念や構造を講義やカードゲームを通して学び、SDGsに関する取組事例の共有し、SDGsについての理解を深めると同時に、自身の関心分野を切り口に、課題を見出し、他者と連携しながら持続可能な社会やまちづくりの実現のために、「今、何をすべきか?」「どこに向かうべきか?」、その解決策と将来像を構築します。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	SDGsに関する基礎的な知識を持ち、他者に分かりやすく説明することができる。											
目標2	各種課題を「自分ごと」として捉えることができる。											
目標3	他者の意見を理解し、共に考え、議論することができる。											
目標4	SDGs推進の取組を提案することができる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	ガイダンスと講義内容の概略と目的											
2	カードゲーム第1回目											
3	カードゲームの問題点/課題を考える。											
4	目標1番～5番とそれらのターゲットに関する内容・事例・課題の説明。											
5	目標6番～9番とそれらのターゲットに関する内容・事例・課題の説明。											
6	目標10番～12番とそれらのターゲットに関する内容・事例・課題の説明。											
7	目標13番～17番とそれらのターゲットに関する内容・事例・課題の説明。											
8	事例紹介											
9	カードゲーム第2回目											
10	カードゲームの問題点/課題を考える。											
11	事例紹介											
12	グループワーク(課題を洗い出し、整理する)											
13	グループワーク(それぞれの課題に対して、解決策を考える)											
14	発表会および討論											
15	総括および提案(重要なポイントに絞り、問題点・課題・対策を決定する)											
ラーニング	A:知識の定着・確認	演習、小テスト、ルーブリックによる自己評価、グループでの共同作業、ブレインストーミング、KJ法				工夫	その他の					
準備	Moodleに資料等を配しておくので、配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する。(15h)											
事後	授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。小テストや配布資料を用いて復習する。(15h)											
教科書	教科書は指定しない。授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。											
参考書	蟹江憲史「SDGs(持続可能な開発目標)」, 中央公論新社, 2020, ISBN9784121026040											
成績評価の方法	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
小テスト		25%										
ブレインストーミング結果		25%										
最終課題		50%										
すべての小テストおよび課題の合格を単位取得の条件とする。												
注意事項												
備考	カードゲームは対面で行う											
リンク	URL											

教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
教員以外で指導に関わる実務経験者	SGDs公認ファシリテーター
実務経験をいかした教育内容	SGDsカードゲームを通じた地方創成の方法論を理解させる

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式											
AA42N018	カラダの見方・考え方(Ways of looking at Human Body)					自然	対面											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1・2・3・4	教・理工・福	後期	火1	氏名 牧野 治敏(教マ) E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644												
授業の概要	人間の体がどのように扱われてきたのかに注目し、その背景にある考え方や当時の常識について考える。生物学を基礎とするが、歴史上のトピックをその当時の常識や現代の観点など多様な観点から検討し、科学的、社会的、歴史的な常識とは何かをクリティカルに考察する能力を身につけるとともに、多様な文化とそこにある共通性に気づくことをねらいとしている。																	
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	人体描写をひとつ取り上げ、それに対する自分の捉え方を分かりやすい言葉で説明できる。																	
目標2	唯物論的自然観に基づいてヒトの生物学的な位置づけを説明できる。																	
目標3	西洋科学が日本の文化に影響を及ぼした事例を、一つ以上紹介できる。																	
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 人の体をどのように見ているのかを検討することの意味について(授業の概略)																		
2 古代エジプトでの死体処理1:ミイラはなぜつくられたか																		
3 古代エジプトでの死体処理2:ミイラの加工法と後世での利用																		
4 古代ギリシャでの医師の仕事から命の考え方を探る																		
5 古代ギリシャ・ローマの科学の衰退と継承(中東諸国の役割)																		
6 陋習からの解放:ルネサンス期の画家たちは身体をどのように見たか																		
7 実践的な解剖学の復興:ヴェサリウスとその時代																		
8 進化論の意味:ダーウィンはどのように進化論を思いついたか																		
9 霊長類におけるヒトの位置づけ:反復説と幼形成熟説による人種の位置づけ																		
10 日本の事例:仏教思想による絵巻、江戸時代の人体利用ビジネス																		
11 江戸時代の医学:漢方医と蘭方医のせめぎ合い																		
12 ミイラ以外の死体保存術:諸外国の事例と南北戦争によるエンバーミングの普及																		
13 人のカラダの見せ方:絵、蝋人形、X線画像、樹脂加工、3Dデータ等																		
14 人のカラダを唯物論的に考える意味:臓器移植と脳死																		
15 性別をどのように考えるか:染色体・脳・外部形態など、生物学的性差をもとに																		
ラーニング	A:知識の定着・確認	授業中に理解を促すためのクイズを出す					工夫	視覚的資料のある事例をできるだけ多く取り上げ、具体的な事物から話を進め、理解を促すよう工夫している。										
ニテ	B:意見の表現・交換	毎週の授業について、復習のための調べ学習や考え方を問う課題がある																
ン	C:応用志向																	
グ	D:知識の活用・創造																	
時間外学習の内容と時間の目安	準備	関連事項の調べ学習(7h)																
	事後	参考図書を読む。授業で扱った事項に関する課題の提出(8h)																
教科書	使用しない。授業で提示するスライドの一部を配付資料として事前にMoodleに掲載する。																	
参考書	医学の歴史(梶田昭)講談社学術文庫 2003、近代科学の源流(伊東俊太郎)中公文庫 2007 人体解剖のルネサンス(藤田尚男)平凡社 1989、解体新書(杉田玄白、酒井シヅ)講談社学術文庫 1998、人体解剖図(ベンジャミン・リフキン他)二見書房 2007、人間科学(養老孟司)筑摩書房 2002																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	授業内容確認のクイズ	20%																
	授業ごとの課題	30%																
	期末試験	50%																
注意事項	解剖図、写真、ビデオ等を説明に使います。常識の範囲内ですが、苦手な人は受講選択の際に注意して下さい。																	
備考	教養科目(前期)「生命観の変遷」から派生した授業なので、内容が重なる部分がありますが、話題に対する考え方や視点は異なります。特徴的な事例について、主に絵画、壁画、彫刻、標本、ビデオなどを手がかりに考察します。生物学全般の歴史や知識を系統的、網羅的に学びたい人には向きません																	
リンク	URL																	

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
AA45N019	電気の世界 (Introduction to Electrical Engineering)					全学共通科目 自然・科学	対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・ 理工・福	後期	水1	氏名 戸高 孝(理工)  E-mail todaka@oita-u.ac.jp 内線 7823											
授業の概要	この講義では、工学系の基礎的な勉強をしていない学生にも対応して、最近の話題を含めて、やさしく電気の世界を学ぶ。導入では、電気の基本的な考え方や法則を理解し、その応用について学ぶ。また、最新の電気技術のいくつかを取り上げて解説する。課題では、電気に関連した新しい技術や話題を調べて、その基本的な考え方を学ぶ。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	電気に関する基本的な用語を理解し、説明できるようになる																
目標2	電気に関連した現象とそれを支配する法則を説明できる																
目標3	基礎的な電気回路の計算ができる																
目標4	電気磁気現象を応用した工学技術を説明できる																
目標5	電気の応用技術や新しい技術を調べて説明できるようになる																
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	ガイダンス：授業の進め方と講義内容の説明，電気の発見と歴史																
2	電子の正体																
3	個体中の電気伝導																
4	導体とその応用																
5	超伝導とその応用																
6	半導体の基礎																
7	半導体の応用																
8	誘電体とその応用																
9	磁性体の基礎																
10	磁性体の応用																
11	電磁誘導とその応用																
12	電磁波とその応用																
13	電気回路の基礎																
14	電気機器の基礎																
15	電気機器の応用，講義のまとめ																
ラーニング	A:知識の定着・確認	毎回，講義内容の理解を深めるため，課題を与える。中間課題を与え，調査し報告させる。講義中，質問することにより理解を深めさせる。					工夫	映像資料により，理解を深める。									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
時間外学習の内容と時間の目安	準備	配布資料を予習する(15h)。															
	事後	講義の内容を整理し，理解を深める(15h)。課題の解答例や配布資料を用いて復習する(10h)。															
教科書	教科書は用いない。講義資料を配布する。																
参考書	講義の中で必要があれば，参考書等を紹介する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	講義毎の課題	20%															
	中間課題	20%															
	最終課題	60%															
注意事項	新型コロナの影響によっては，オンライン講義となる場合がある。																
備考	理工学部理工学科履修不可 理工学部創生理工学科電気電子コース及び工学部電気電子工学科は履修不可																
リンク	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名) 情報科学の世界(Introduction to Information Science)					区分・【新主題】/(分野) 全学共通科目 自然	授業形式 対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期	水1	氏名 中島 誠(理工) E-mail nakasima@oita-u.ac.jp 内線 7884												
授業の概要	我々の周りにはさまざまな情報が渦巻いている。これらの情報は、数値や文字であったり、音声や画像で表現されたりとその形態が様々ではない。また、その内容も広範囲で多岐に渡っている。情報科学は情報を取り扱うときの基礎となる理論体系で、日常生活において我々が最も恩恵を受けている学問といっても過言ではない。この講義では、情報科学の基礎的な考え方を学修し、さらに、コンピュータによる情報処理についても学んでいく。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	情報科学における考え方には多くの視点があることに関心をもち、それらを説明できる。																	
目標2	世の中にあふれる情報を収集・活用する適切な手段を選択できる。																	
目標3	情報科学に関連した技術について興味を持ち、基本的な課題や原理を説明できる。																	
目標4	現代社会における情報科学・情報技術の様々な応用場면을把握し、説明できる。																	
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1	情報洪水に溺れないように(1)(講義ガイダンス含む):インターネットの歴史と基本技術																	
2	情報洪水に溺れないように(2):電子図書館とサーチエンジン																	
3	情報の探し方を科学する:情報検索に関わる種々の技術																	
4	ソフトウェアを記述する(1):ソフトウェアの特徴と設計方法																	
5	ソフトウェアを記述する(2):プログラミングへの招待																	
6	人間とコンピュータのリアルな関係(1):知能ロボット																	
7	人間とコンピュータのリアルな関係(2):xR技術																	
8	コンピュータの中で音はどう表現されているか(1):コンピュータ上での音の表現																	
9	コンピュータの中で音はどう表現されているか(2):音メディア処理																	
10	百聞は一見に如かず(1):コンピュータ上での画像データの表現と処理																	
11	百聞は一見に如かず(2):パターン認識の原理																	
12	安全・安心なコンピュータの作り方(1):コンピュータの構成とその設計方法																	
13	安全・安心なコンピュータの作り方(2):信頼できるコンピュータの設計技術																	
14	計算機科学と自然科学:数値計算,並列計算,シミュレーション																	
15	計算機科学とデータ科学:データサイエンス,機械学習,人工知能																	
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	トピックごとに、理解度の確認あるいは、各自の意見を問うレポート課題や小テスト等を出題する。宿題として受講生自身の情報収集による事前の下調べを科す場合もある。					工 夫 そ の 他 の											
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	レポート課題や小テスト等(各担当教員の指示)の内容により、図書館等での事前の下調べ(15h)が必要となる場合もある。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める(30h)																
教科書	教科書は用いない。																	
参考書	適宜、参考資料を配付する。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	レポート課題	70%																
	小テスト	30%																
注意事項	工学部知能情報システム工学科ならびに理工学部共創理工学科知能情報システムコースの学生は履修不可。すでに全学共通科目の「コンピュータ科学入門」を修得した学生は履修不可。																	
備考	古家賢一(理工),高見利也(理工),大竹哲史(理工),紙名哲生(理工),行天啓二(理工),池部実(理工),賀川経夫(理工),佐藤慶三(理工)も合わせて担当する。																	
リンク																		
	URL																	

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	中島誠（開発者）、古家賢一（研究員）、紙名哲生（研究員）、行天啓二（システムエンジニア）、佐藤慶三（システムエンジニア）
実務経験を いかした教 育内容	情報処理技術について、企業等での実際のシステム開発、情報収集、研究開発などの経験を織り交ぜながら、解説する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
AA42G013	自然体験活動の理論と実践(A theory and practice to recognize nature)					全学共通科目 総合	対面								
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・ 理工・福	前期/後 期	水1	氏名 牧野 治敏(教マ)  E-mail hmakino@oita-u.ac.jp 内線 7644									
授業の概要	自然認識の過程を実践的に学ぶ授業です。自然認識の深まり、広がり自然科学の理解を強固すると同時に、獲得した知識や技能が自然への知覚を広げ深めるという相互作用を体験的に学習します。また、自分自身も自然の一部であるとの立場でSDGsを考察します。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	身のまわりの自然を深く感じ取る手法を5つ以上修得している。														
目標2	多様な見方、考え方、感じ方を受容した応答や意思表示ができる。														
目標3	効果的な自然体験指導を理論に基づいて説明できる。														
目標4	SDGsのいくつかを自分自身との関わりで説明できる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	自然体験とは(授業の概要説明。直接体験と間接体験について)														
2	自然に対する既存知識の確認(初歩的な自然認識について)														
3	自然に目を向けるための活動1(身のまわりの自然に興味を持たせる)														
4	「活動1」の解説(教えるのではなく気づかせるための工夫)														
5	自然に目を向けるための活動2(五感を使った気づき)														
6	「活動2」の解説(感じ方の個人差を活用した指導法)														
7	危機管理のためのブレインストーミングと野外活動時の危機管理について														
8	SDGsの概要と環境教育														
9	グループに分かれて、指導の実践と相互評価(その1)														
10	指導の振り返りと課題の解決(その1)														
11	グループに分かれて、指導の実践と相互評価(その2)														
12	指導の振り返りと課題の解決(その2)														
13	環境保全に関する検討会														
14	より深く自然を体験する活動(自然との一体感)														
15	この授業による認知的変容を描画によりまとめる活動														
ラ ア ク ニ テ ィ ン グ レ ッ ク	A:知識の定着・確認	・直接に自然を体験し、その体験を言葉や絵で表現し、受講生間で共有する。		工 夫 そ の 他 の											
	B:意見の表現・交換	・他人の考え方や感じ方を受容し、自分との共通点、相違点を明確化することで自己認識を深化させる。													
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
時間外学修 の内容と時 間の目安	準備 学修	教科書の必要箇所を読み、シェアリングネイチャーの理念を理解する。(8h)													
	事後 学修	実践したアクティビティの要点を、教科書から抽出しまとめる。自然との一体感を得るためのエクササイズをする。実践実習のための「指導計画書」を作成し、予行演習をする。(8h)													
教科書	『シェアリングネイチャー～自然のよこびをわかちあおう～』ジョセフ・コーネル著 日本シェアリングネイチャー協会発行(2012年) 2000円(税別)														
参考書	Joseph Bharat Cornell 著「SHARING NATURE Nature Awareness Activities for All Ages」Crystal Clarity Publishers, 2015														
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10			
	ミニッツペーパー	30%													
	課題提出	20%													
	実技	30%													
	実践計画書の提出	20%													
実習については、翌週以降の授業で詳しく振り返りをするので、実習1回の欠席は授業2回分の不参加に相当します。注意してください。															
注意事項	受講生を20人までに制限します。授業の順序は天候等により変更する場合があります。パンダナと敷物は必須です。雨中での活動がしやすいように、雨合羽などの雨具が必須です(傘は不適)。														
備考	公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会公認の「ネイチャーゲームリーダー」の資格が取得できる授業です。全課程履修、及び検定試験の合格が条件です。(登録料と1年目の年会費が別途必要ですが、それ以降の在学中の年会費は免除されます)														
リンク	ネイチャーゲームのビデオ(日本シェアリングネイチャー協会ホームページ) URL <a href="https://www.naturegame.or.jp/">https://www.naturegame.or.jp/</a>														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
AA42G116		学習意欲の心理学(Psychology of Motivation and Learning)					全学共通科目 総合	オンライン(オンデマンド型)										
		*大分を創る科目																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員												
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期	水1	氏名 鈴木 雄清(IR・教マ) E-mail suzuki@oita-u.ac.jp 内線 7069												
授業の概要	知識社会の到来に伴い、生涯を通じて主体的かつ継続的に学習することが求められるようになっている。そのためには、自ら学習への意欲、動機づけを高められることが重要である。学習意欲に関する心理学理論は多数ある。それらの理論のいくつかを取り上げて紹介し、自分にあった方策を活用して学習意欲を高めることができるようになることをめざす。																	
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 学習意欲に係わる心理学の理論を説明できる。																		
目標2 学習意欲の問題に対して、解決案を示すことができる。																		
目標3 学習者として、意欲を高めるための方策を選択し、活用できる。																		
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
授業の内容																		
1 オリエンテーション・欲求段階説とERG理論																		
2 協同学習の要素・アイスブレイク																		
3 学習スタイル																		
4 学習意欲と報酬																		
5 自己効力感・ピグマリオン効果・マインドセット																		
6 学習性無力感と楽観主義																		
7 フロー経験																		
8 集中力を高める																		
9 マインドフルネス																		
10 学習と運動																		
11 アドラー心理学																		
12 ライフスタイルと学習																		
13 自己調整学習																		
14 学習意欲に関する教育経験の振り返り																		
15 ARCS動機づけモデルによる分析																		
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認					小テスト、演習、省察ミニッツペーパー課題、フォーラムでの意見交換					工 夫 そ の 他 の	オンデマンド型(非同期型)オンライン授業						
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	必要に応じて配付資料等を用いて予習する。これまで受けた教育での動機づけについて振り返る(1h)。																
	事後学修	小テストや資料等を用いて復習する(10h)。課題の完成度を高める(20h)。学習の動機づけ方策を実践する(14h)。																
教科書	教科書は指定しない。 必要に応じて、資料等を提示する。																	
参考書	John M. Keller(原著)、鈴木 克明(翻訳)『学習意欲をデザインする ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』、北大路書房、2010年、ISBN9784762827211																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10						
	小テスト	10%																
	タスク・ミニッツペーパー	70%																
	最終課題	20%																
すべての小テストおよび最終課題の合格を単位取得の条件とする。																		
注意事項																		
備考																		
リンク																		
	URL																	



ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
AA44S223	日本のマネジメント(Management in Japan)					全学共通科目 社会・経済	オンライン(オンデマンド型)								
*大分を創る科目															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期	水2	氏名 加納拡和(経) E-mail hkano@oita-u.ac.jp 内線 7709									
授業の概要	本授業では、日本の企業システムの特徴並びに日本企業が抱える今日的な課題とそれらに対する取り組みを学習する。具体的に、日本の企業システムの特徴を概観した上で、日本企業が抱える諸問題としてイノベーション、ダイバーシティ、グローバル経営、コーポレート・ガバナンス、アントレプレナーシップ等のトピックに焦点を当てる。本授業は、上記の課題に対して経営学の諸理論を応用し、客観的、多角的に理解を深めていく。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	日本の企業システムの特徴を理解し、説明できるようになること														
目標2	日本企業が現在直面する課題とそれらに対する取り組みを理論的に分析できるようになること														
目標3															
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	ガイダンス														
2	経営学の前提知識														
3	日本の企業システム(1)														
4	日本の企業システム(2)														
5	日本企業の課題と取り組み:イノベーション(1)														
6	日本企業の課題と取り組み:イノベーション(2)														
7	日本企業の課題と取り組み:ダイバーシティ(1)														
8	日本企業の課題と取り組み:ダイバーシティ(2)														
9	日本企業の課題と取り組み:グローバル経営(1)														
10	日本企業の課題と取り組み:グローバル経営(2)														
11	日本企業の課題と取り組み:コーポレート・ガバナンス(1)														
12	日本企業の課題と取り組み:コーポレート・ガバナンス(2)														
13	日本企業の課題と取り組み:アントレプレナーシップ(1)														
14	日本企業の課題と取り組み:アントレプレナーシップ(2)														
15	本授業のまとめ														
ラック	A:知識の定着・確認	受講者が授業の要約と質問事項、感想をミニッツペーパーに記入し、次回授業の冒頭で担当教員が質問に対する回答と補足説明を行う。										工	その	他の	
ニテ	B:意見の表現・交換														
ンイ	C:応用志向														
グ	D:知識の活用・創造														
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配布資料で紹介する予習用の文献を必要に応じて予習する(15h)。													
	事後学修	配布資料、配布資料で紹介する復習用の文献を必要に応じて復習する(15h)。レポート課題に取り組む(10h)。													
教科書	教科書は指定しない。以下の参考書を基に作成した講義レジュメを各授業で作成・配布する。														
参考書	・入山章栄(2019)『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社 ・その他の参考書は授業中に適宜指定する。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	ミニッツペーパー	60%													
	課題レポート(3千字程度)	40%													
注意事項	本科目はオンデマンド形式で開講します。しかし、厳密に成績評価を行います。単に「オンデマンド形式だから」という理由での受講は控えてください。														
備考															
リンク															
	URL														

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	ITコンサルタント
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	経営コンサルタント
実務経験を いかした教 育内容	・日本企業の事例や実態を適宜紹介することで理解の促進を図る。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
AA45N122	くらしの化学(Chemistry in Daily Life)					自然	対面										
*大分を創る科目																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期	水2	氏名 氏家 誠司(内線 7903), 衣本 太郎(内線 7905)(理工)											
E-mail seujiie@oita-u.ac.jp(氏家), kinumoto@oita-u.ac.jp(衣本)							内線										
授業の概要	身の回りで利用されている化学物質・材料および化学製品について理解するとともに、その機能および性能について学ぶ。具体的には、界面活性剤、プラスチック、ゴム、繊維、染料、化粧品、セラミックス、生体材料および光学材料などについて身近な製品や実験などを通して理解を深める。さらに暮らしに密接する重要な有害物質として、放射性物質をとりあげ、その発見と関連する放射線の種類、特性、単位を理解し、その人体に及ぼす影響と安全利用について理解を深めるとともに、将来のエネルギー構想について概観する。以上により、日々の暮らしの中に如何に「化学」が関係しているかを理解する。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	身近な化学材料や化学製品を説明できる。																
目標2	身近な化学材料や化学製品の特長、役割および問題点を理解できる。																
目標3	身近な化学材料や化学製品の未来について考え、議論できる。																
目標4	日常生活環境に潜在する様々な放射性物質由来の「放射線」について理解できる。																
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	くらしにおける化学のかかわり																
2	身の回りにおける化学製品の概要																
3	石油化学工業と製品の概要																
4	化学物質・材料と製品の概要																
5	染料の特徴と応用範囲																
6	プラスチック製品の特徴と応用範囲																
7	繊維製品の特長と応用範囲																
8	界面の科学と応用製品(石鹼、洗剤、化粧品)																
9	放射性物質と原子力発電																
10	次世代エネルギーと電池の化学																
11	無機物・炭素材料について																
12	くらしに関連する金属																
13	くらしに関連するセラミックス																
14	大気環境の化学																
15	水に関する化学と講義のまとめ																
ラ	A:知識の定着・確認	講義の内容に合わせて下記のいずれかをそれぞれの回で行う。					工夫 その 他の	身近にあり、人の営みの中で必要であり、重要なものであるが、その扱い方には注意が必要であることを理解し、日ごろから意識できるようにする。									
ア	B:意見の表現・交換	1. その回のテーマに対する自分の考えを書いてもらう。															
ニ	C:応用志向	2. 講義を聴いて理解していなければ解けない問題に取り組んでもらう。															
テ	D:知識の活用・創造																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	日常的に利用している化学製品やエネルギーに関する現状や課題を調べ、学習しておく(10h)。															
	事後学修	授業中に得た知識や意見交換で得た情報をもとに自分の考えをまとめレポートにまとめる(10h)。															
教科書	必要に応じて資料を配布する。																
参考書	授業中に適宜紹介する。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	意見交換	30%															
	小テスト	20%															
	アイデア創出	20%															
	最終課題	30%															
		評価については、対面かmoodleのどちらかで行う。															
注意事項	理工学部応用化学コース、工学部応用化学科の学生は受講不可。																
備考	演実実験等を行うため受講可能な人数は60名程度。教員以外の実務経験者(工芸専門家など)が講義・指導に参加する。																
リンク	URL																

教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
教員以外で指導に関わる実務経験者	天然素材の工芸専門家
実務経験をいかした教育内容	【工芸専門家】県産品である竹を中心に科学にもとづいた造形について概説する。

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式										
AA42G211	インストラクショナルデザイン入門(Instructional Design Fundamentals)					全学共通科目 総合	対面										
*大分を創る科目																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択	2	1・2・3・4	教・経・医・理工・福	後期	水2	氏名 鈴木 雄清(IR・教マ) E-mail suzuki@oita-u.ac.jp 内線 7069											
授業の概要	企業や医療現場における教育、高等教育などで幅広く用いられているインストラクショナルデザインの基礎を、実際の教材作成体験を通じて学ぶ。独学教材の設計、作成、改善を通じて、教育を効果的に、効率よく、魅力的にする方法を実現できるようになることをめざす。																
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	明確な目標の設定やテストの作成、教授方略を用いた教材の設計ができる。																
目標2	インストラクショナルデザインの基礎に従って、独学を支援するための教材を作成できる。																
目標3	形成的評価を実施し、よりよい教材にするために改善策を提案できる。																
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	【ブロック1】オリエンテーション、独学を支援する教材																
2	教材をイメージする、教材作りをイメージする																
3	教材の責任範囲を明らかにする、テストを作成する																
4	教材企画書(初版)の作成																
5	教材企画書の相互評価																
6	教材企画書(改訂第2版)の作成[課題1]																
7	【ブロック2】相互評価・改訂版の作成																
8	教材パッケージを作成する																
9	教材企画書(改訂第3版)の作成																
10	教材パッケージの作成																
11	【ブロック3】形成的評価を実施する、教材を改善する																
12	教材パッケージの相互評価																
13	教材パッケージの改訂版作成[課題2]																
14	形成的評価の実施																
15	総まとめと最終課題[課題3]																
ラ ア ク ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	小テスト、フォーラムでの相互コメント、現実的な課題に基づく学習成果物の作成、成果物の相互レビュー、チェックリスト・ルーブリックによる自己評価	工 夫 そ の 他 の	LMS(Moodle)の活用、タスクは各自のペースで実施													
時間外学修の内容と時間の目安	準備 学修 事後 学修	教科書を必要に応じて読む(5h)。 授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める(35h)。小テストや教科書・参考文献を用いて復習する(2h)。形成的評価を実施する(3h)。															
教科書	鈴木克明 『教材設計マニュアル 独学を支援するために』北大路書房、2002年、ISBN9784762822445〔2,200円+税〕																
参考書	R.M.ガニェ・W.W.ウェイジャー・K.C.ゴラス・J.M.ケラー(著)、鈴木克明・岩崎信(監訳) 『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房、2007年、ISBN9784762825736																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	小テスト・フォーラム投稿課題	20%															
	教材企画書[課題1]	20%															
	教材パッケージ[課題2]	40%															
	最終課題[課題3]	20%															
すべての小テストおよびすべての課題の合格を単位取得の条件とする。																	
注意事項																	
備考																	
リンク	URL																

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式					
K143E408	労使関係論(Labor-Management Relations Theory)					経済学科 経済学科	対面					
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	3,4	経済	後期	火3	氏名 石井 まこと E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698						
授業の概要	労働条件は、たとえば春闘のように労働組合と企業の交渉 = 集团的労使関係で決まっていますが、近年、こうした集团的な決定が衰退化し、労働市場における個別での決定に傾いています。この授業ではこうした個別化が労働者と社会に与える影響を考えていきます。そのために、まず、労使関係によって労働条件が変化することを理解し、労使関係の発展史を検討し、あわせて国際比較により日本の労使関係の特徴を紹介していきます。その上で、ワークショップ形式により、労使関係が我々の人生のなかで、いかなる可能性を持ちうるのか考えていきます。											
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10					
目標1	日本の労使関係の諸特徴を説明できる。											
目標2	労使関係の発展史を説明できる。											
目標3	労使関係を自分事の問題とし、解決に向けた行動の重要性を理解できる。											
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	労使関係はどういう学問か											
2	日本の労使関係の特徴と形成(1) - 近代											
3	日本の労使関係の特徴と形成(2) - 現代											
4	賃金問題と労使関係											
5	集团的労使関係の変化と労働市場											
6	人事管理の変化と労使関係											
7	企業別組合と労使関係											
8	組織化の課題											
9	日本の経営者・経営者団体と労働組合											
10	政府と労使関係											
11	国際化が変える労使関係とは											
12	デモ・ストライキで変える労働・生活条件											
13	就職活動と労使関係											
14	地方で賃上げをする意義											
15	総括											
ラーニング ポイント チェック シート グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	この講義ではほぼ毎回授業レポートを行い、可能な限り質問に答えています。				工夫 その 他の	授業内容をよりイメージできるように、映像コンテンツも活用した授業も行います。					
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学修	レジュメ・参考文献の予習(22.5時間:1回1.5時間)。										
	事後 学修	レポートの作成(22.5時間:1回1.5時間)。										
教科書	毎回レジュメを配布します。											
参考書	仁田道夫・中村圭介・野川忍(2021)『労働組合の基礎』日本評論社。 浅見和彦(2021)『労使関係論とはなにか』旬報社。 富田義典・花田昌宣・チッソ労働運動史研究会(2021)『水俣に生きた労働者』明石書店。											
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10
	課題レポート	30%										
	期末テスト	70%										
注意事項	授業時間中に適宜、質問時間をとります。積極的に聞いてください。											
備考												
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の实務 経験	大原記念労働科学研究所での研究員（1995.4～1998.3）

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式												
K343R424		労働関係法 (Labor Law II)					地域システム学科 地域システム学科		対面												
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択	2	3,4	経	後期	金3	氏名 小山 敬晴 E-mail taukappa09@oita-u.ac.jp 内線 7692															
授業の概要	本講義は、「労働関係法I」の講義と併せて日本の労働法の全体像を理解できるように行います。「労働関係法II」では、主に労働基準法、労働契約法、労働組合法の基礎的内容と判例法理を理解し、職場で本来守られるべき法律上のルールを習得することを目指します。それだけでなく、現場で実際に生じている労働問題と、労働関係法の限界点を知り、問題への解決方法を考える力を養うことを目指します。																				
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)									1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
目標1	労働法という法分野の存在意義を理解すること。																				
目標2	労働基準法、労働契約法、労働組合法の条文内容と判例法理を理解すること。																				
目標3	法学的文章を記述できるようになること。																				
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1	非正規雇用：雇止め、無期転換権																				
2	非正規雇用：均等待遇																				
3	賃金に関する法規則																				
4	労働時間規制の基礎																				
5	36協定																				
6	弾力的労働時間制度																				
7	有給休暇																				
8	男女雇用機会均等法																				
9	女性労働と母性保護																				
10	労災補償																				
11	団結権の歴史																				
12	団結権・不当労働行為救済制度																				
13	団体交渉と労働協約																				
14	団体行動と集团的労使紛争処理																				
15	労働法の現代的課題と展望																				
ラーニング	A:知識の定着・確認	法律内容の知識定着を図るために、単元ごとに課題を出し、授業内の発言を求める。								工 夫 そ の 他 の											
	B:意見の表現・交換	また知識定着の確認のため、小テストを実施する。																			
ニテ	C:応用志向																				
グ	D:知識の活用・創造																				
時間外学習の内容と時間の目安	準備	次の時限で扱う教科書の該当箇所の読了：30時間																			
	事後	復習：15時間																			
教科書	小宮文人・本久洋一編著『労働法の基本〔第2版〕』（法律文化社2021）、および有斐閣または三省堂の最新の小型の六法（判例のついていないもの）を持参すること。法学六法（信山社）は労働関係法規が収録されておらず、使いものにならない。																				
参考書	授業内で適宜指示する。																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10									
	期末試験	100%																			
注意事項																					
備考																					
リンク	URL																				